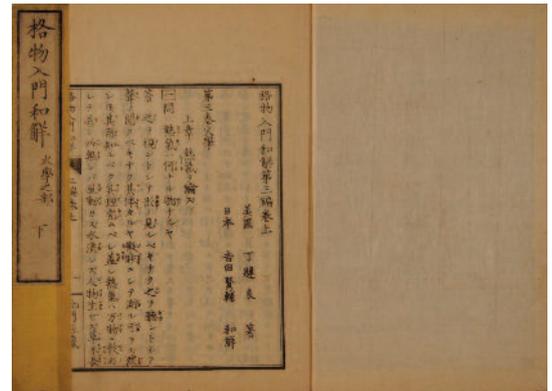
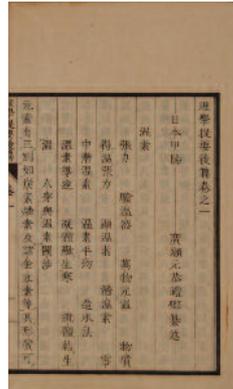
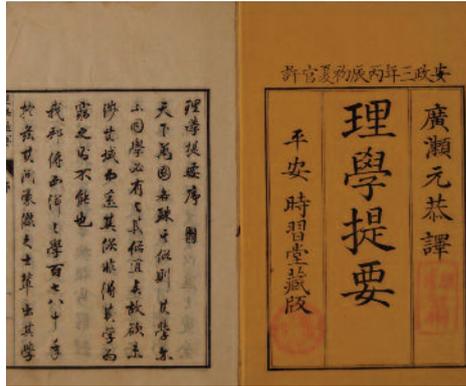
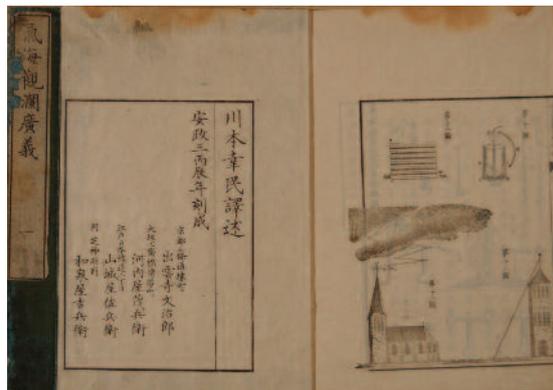
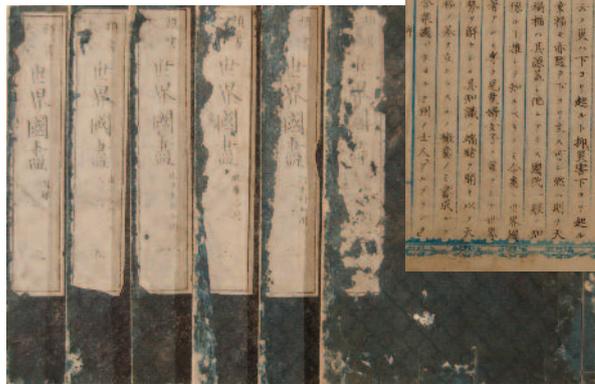
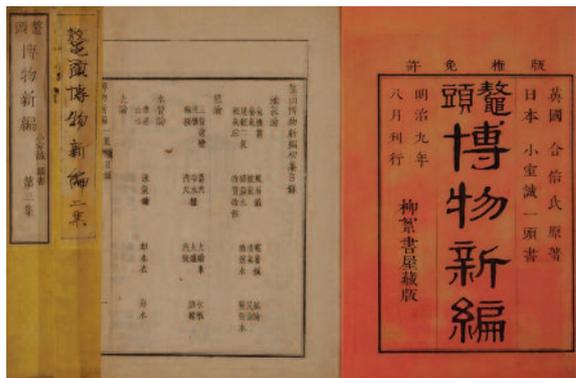


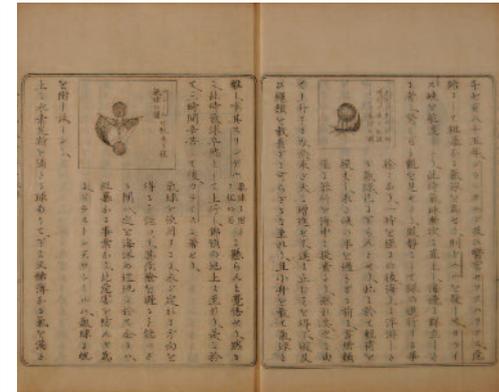
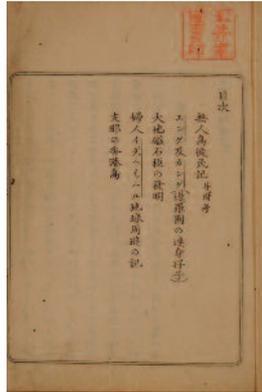
- 120 博物新編譯解 4卷 簽 帙入 大森秀三譯 慶應4序 中5册 20,000  
 121 理學提要 首卷 簽 廣瀬元恭譯 平安時習堂藏版 安政3 大1册 10,000  
 122 理學提要後編卷一 簽 廣瀬元恭纂述 安政6年 大1册 品切れ  
 123 格物入門和解 火學之部上下卷 簽 丁建良著 明3 半1册 10,000  
 =吉田賢輔譯 北門社藏



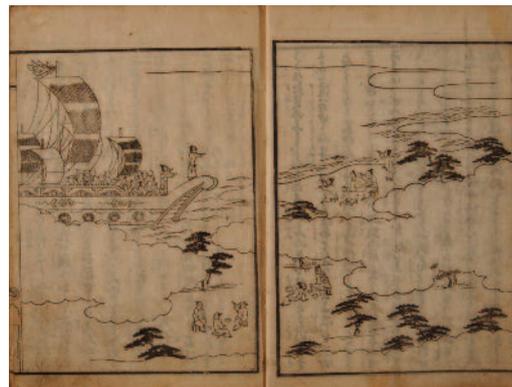
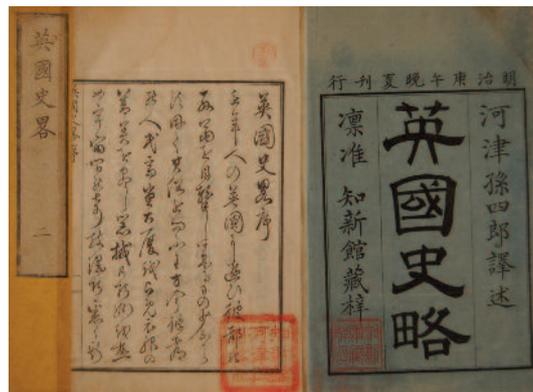
- 124 鼈頭 博物新編 三集 第二集 簽欠 小室誠一頭書 明9 大3册 20,000  
 =英國／合信氏原著 稻田佐吉發兌 銅版繪入
- 125 氣海觀瀾廣義 12卷 (全15卷の内) 簽 嘉永4・安政3 大12册 20,000  
 =三田／川本幸民譯 靜修堂藏
- 126 頭書大全 世界國畫 6卷 簽 初版 福澤諭吉譯 明2 半6册 品切れ



- 127 官板 玉石志林 巻1 題簽欠 箕作阮甫譯 文久頃刊 大1冊 品切れ  
 =無人島徒民記・支那の香港島・婦人イダ・ヘイッヘル地球周遊の記他
- 128 官板 玉石志林 巻3 簽 箕作阮甫譯 老艮館與書 大1冊 10,000  
 =氣球・土耳其主マハムッド略紀・義俠マサニール口傳・スウェーデン・ノルウェシヤの熊獵他
- 129 窮理新説附録 風の事 題簽欠 大阪/矢須川通濟譯述 明6 中1冊 3,000



- 130 英國史略 全4巻 籙 河津孫四郎譯 知新館藏梓 明3 半4冊 品切れ  
 =チャンブル及びハルドウィン著から抄譯 作樂戶癡鶯譯 (3・4巻) 巻3表紙傷ミ
- 131 南瓢記 巻4 (全5巻の内) 籙 巻首傷ミ 寛政10年刊 半1冊 10,000  
 =枝芳軒/静之著 漂流記



132 和蘭砲術全書卷之七

寫本 35 丁 江戸末期寫

大 1 册 50,000

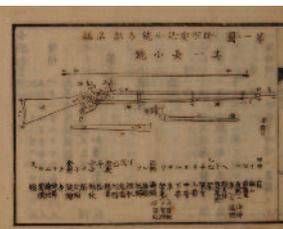
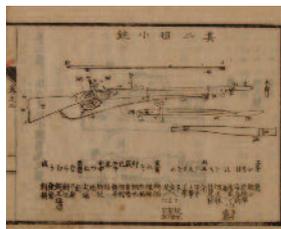
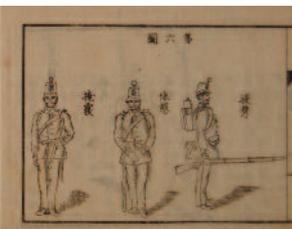
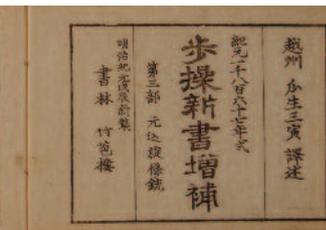
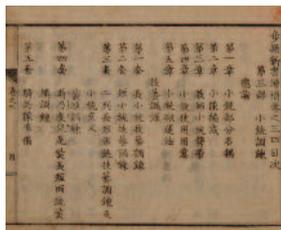
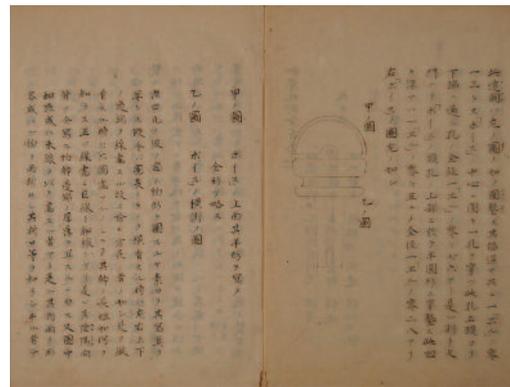
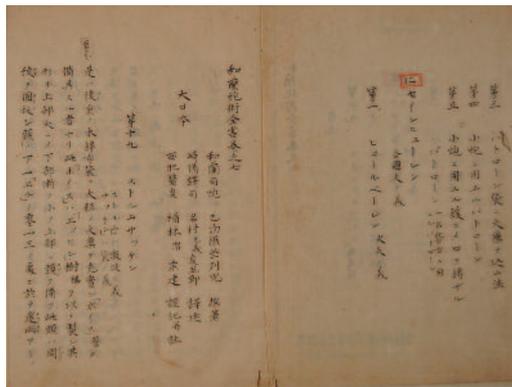
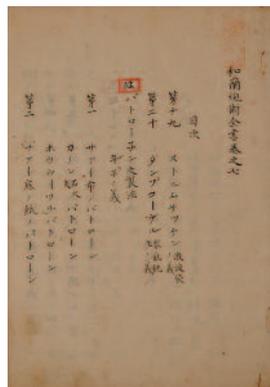
=和蘭司砲/乙物攝些列兒撰著 崎陽譯司/名村元義貞五郎譯述 西肥醫員/植林潜宗建謹記并註 刊本は存在しない。

國書によれば5册として、東北大学狩野文庫に所蔵されるのみ。但しその5册は巻之5迄らしく、本書巻之7は新出かもしれない。

133 歩操新書増補 施錠銃上

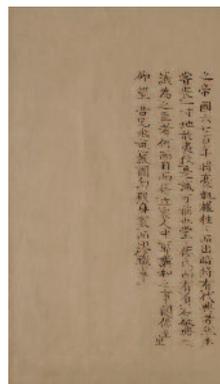
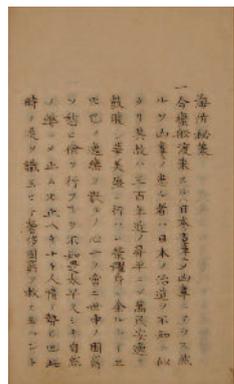
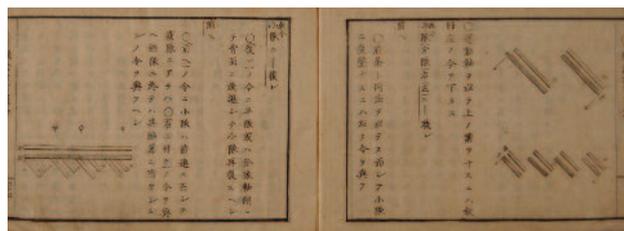
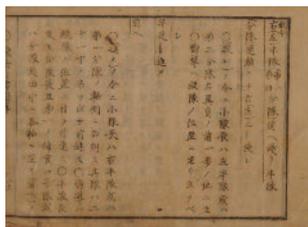
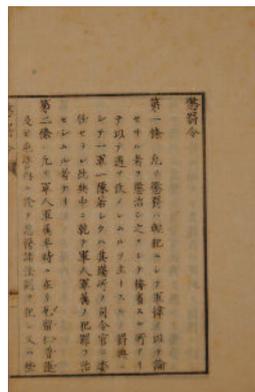
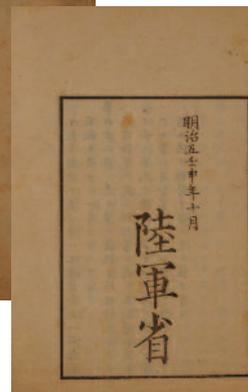
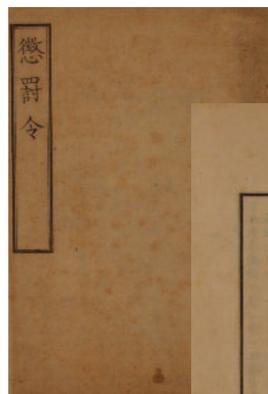
纂 越州/瓜生三寅譯 明元

中 1 册 品切れ



- 134 練法新書圖解 下巻 篠欠 著者刊年不明 江戸末期刊  
 135 陸軍省懲罰令 摺外題 明治5年10月刊  
 136 海防秘策 寫本 27丁 北条氏興述 江戸末期寫

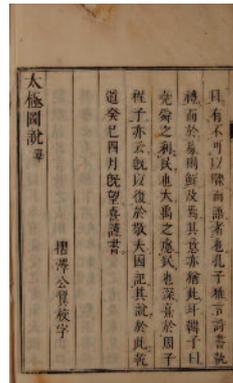
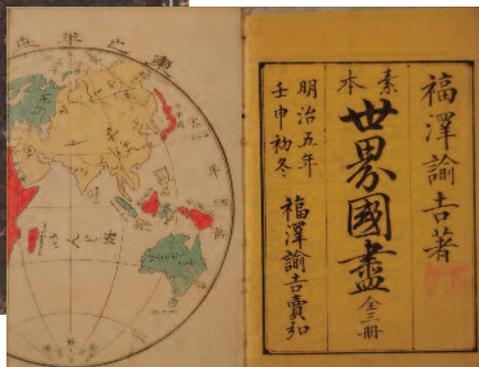
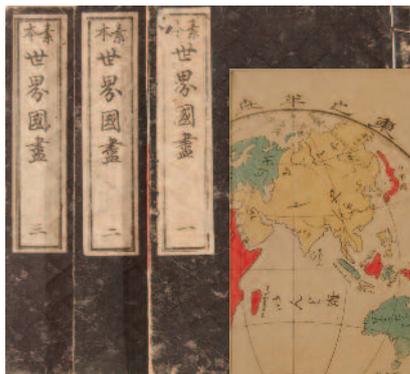
- 中横 1册 10,000  
 中 1册 10,000  
 大 1册 10,000



137 素本 世界國盡 3卷 簽 帙入 福澤諭吉著版 明5 中3册 15,000

138 日本軍隊教範 增田信次編 大阪偉業館藏版 明30 中橫1册 15,000

139 太極圖說 簽欠 ヤヤ傷ミ 養賢堂藏 文化8年鐫 大1册 15,000  
=宗/濂溪周先生著 大槻清準訓點 仙臺府學讀本





140 異國産馬圖卷（仮題）

1巻 500,000

=紙高27cm。長さ650cm。繪師不明。年記無し。

16頭の外國産馬の圖から成る。ハルシヤ（ペルシヤ）、ジャワ國・アラビヤ國等の原産國と各馬の年齢や毛の色ヲ記し稀に特徴を記す。

一説によると支那、和蘭船がもたらした鳥獸は、まず長崎で繪にしてから江戸に送付し、幕府はそれにより必要な鳥獸を長崎から江戸に取り寄せていたと云う。寛文年間から長崎に渡來した鳥獸を通報する役割を命じられていた長崎町年寄の高木家に傳わった全部で225圖カラ成ル『唐蘭船持渡鳥獸之圖』は、昭和32年松永安左衛門により寄贈されて、現在慶應義塾大學の所藏となり、江戸時代の動物渡來史を大きく書き直すもとなった博物史上貴重な資料と云われる。その馬の圖をそっくり寫した繪卷が國立國會圖書館の所藏され『異國産馬圖卷』と題す。國會本は國會圖書館のホームページ「江戸時代の日蘭交流」の中で全容が公開されている。（<http://www.ndl.go.jp/nichiran/data/T/147/index.html>）それと比較すると、本卷はそれともほぼ同寸の同構圖で寫されていて馬の描寫力も全く遜色はなく兄弟本と云っても過言ではない。但し本卷の16圖に對し、國會本は17圖から成るが、本卷の卷頭にある驢馬の2種は描かれていない。また國會本も奥書や年記はない。江戸後期の寫しと想像するが寛政以前に遡ると考えられる。



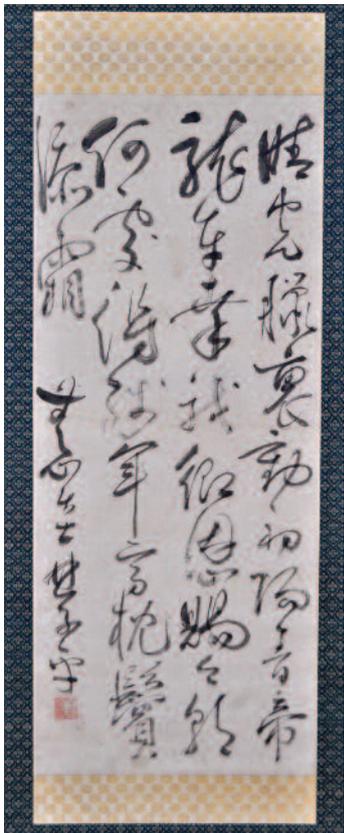




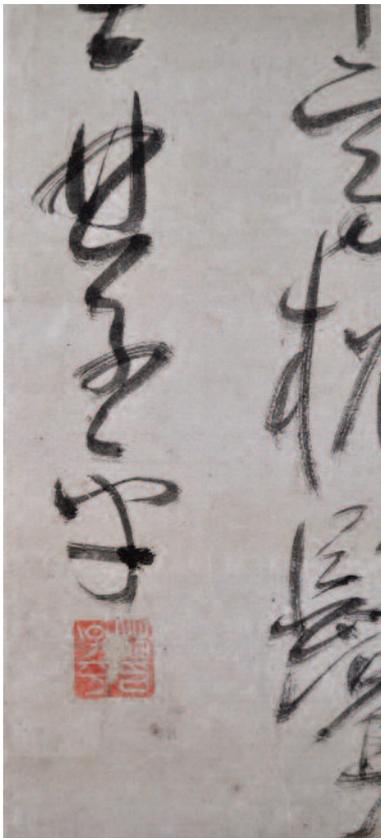
鹿毛男馬 壹疋

長八寸 柱

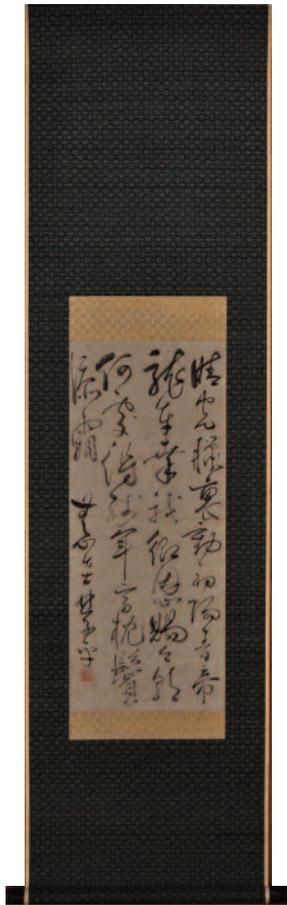
出所 仁之國

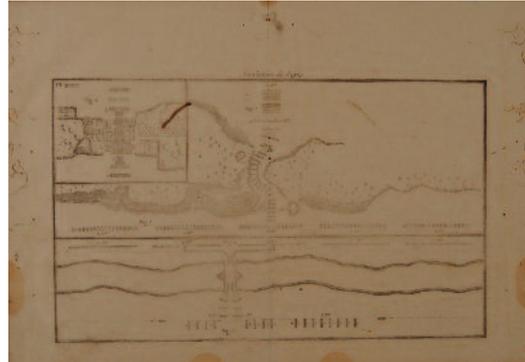
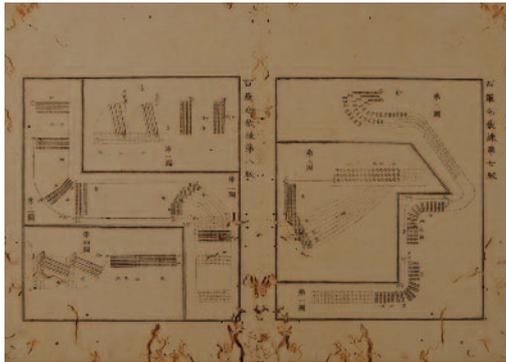
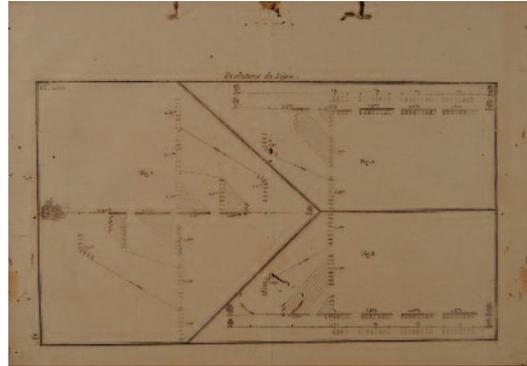
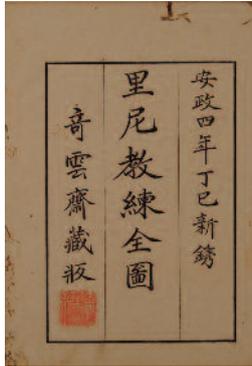


141 林子平書幅  
=無心居士林子平「印」。紙本。62×26cm。軸長 152cm。函。

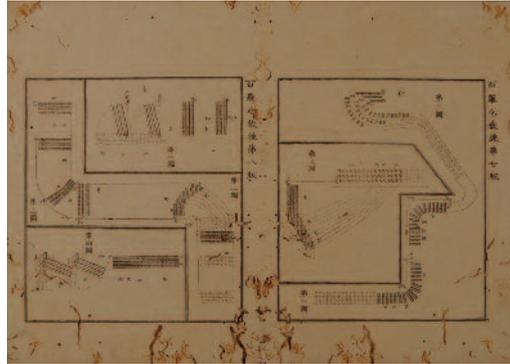
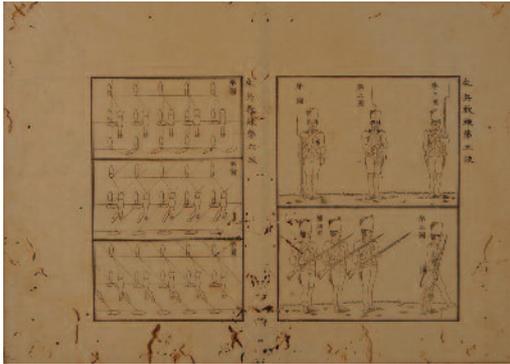
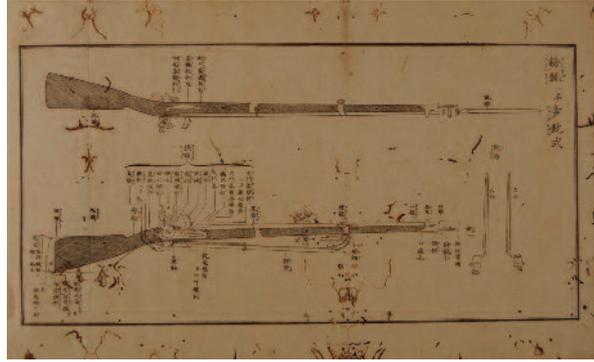
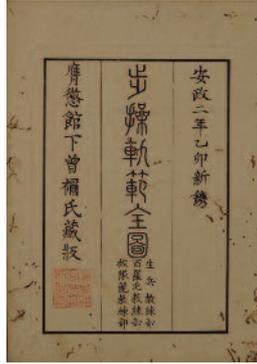


1 幅 500,000

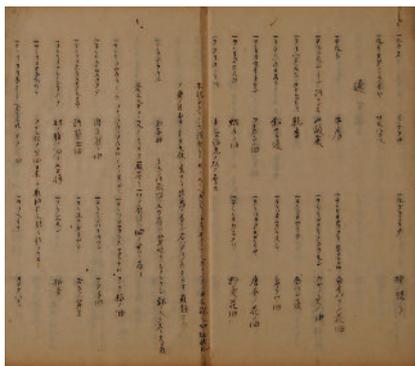
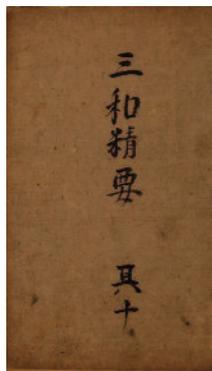
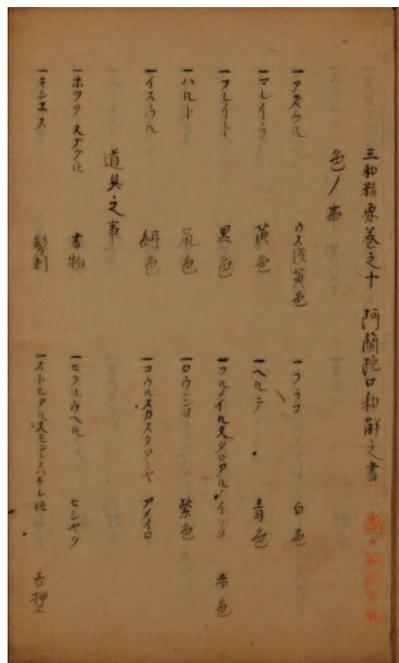




142 里尼教練全圖 原装題簽欠 ヤヤ虫 安政四年新鑄 大1册 80,000  
=奇雲齋藏版

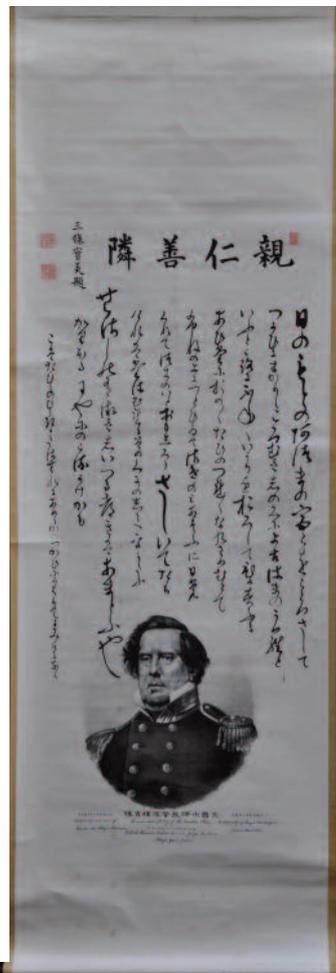


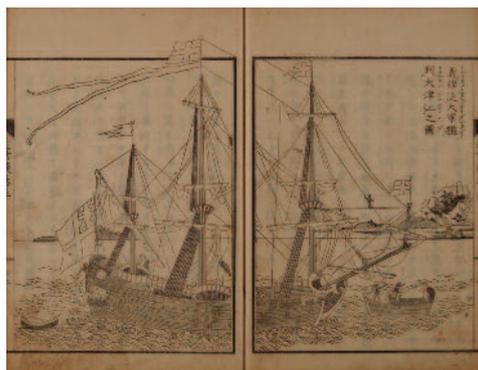
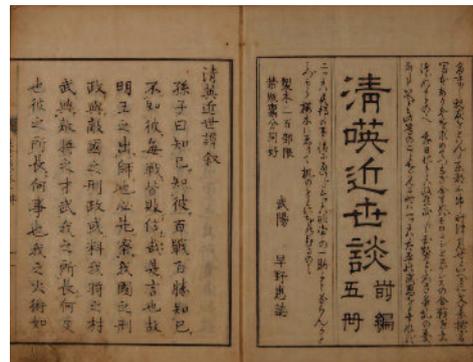
143 歩操軌範全圖 原裝題簽欠 ヤヤ虫多 安政二年新鐫 大1冊 品切れ  
 =生兵教練部・百羅屯教練部・拔隊龍教練部 鷹匠館下曾禰氏藏版  
 茂亭内田茂德摹



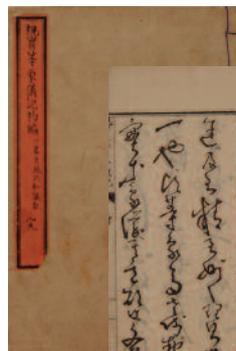
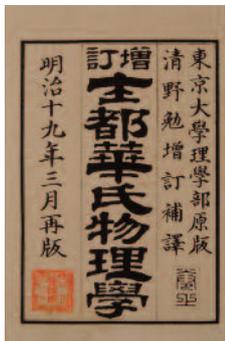
144 三和精要 卷10 少虫 寫本37丁 江戸末期寫 大1册 品切れ  
=阿蘭陀口和辭之書

145 米國水師提督彼理肖像幅 石版印刷 軸長195cm 明治刊 1幅 品切れ  
=三條實美題 佐久間啓象山歌并書 東京銀座/太盛堂宇敷則明發行



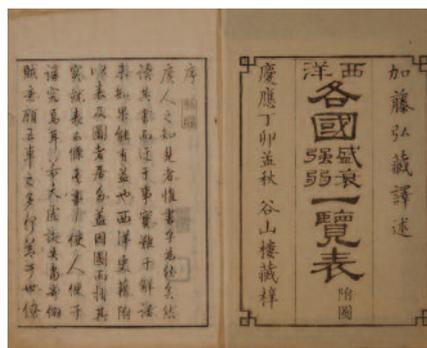
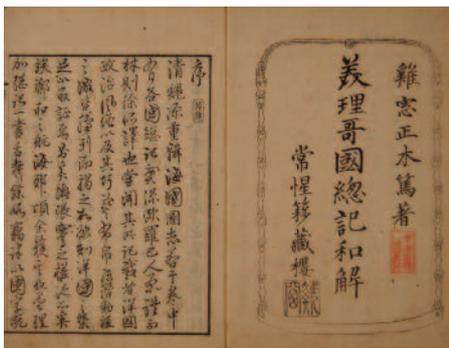
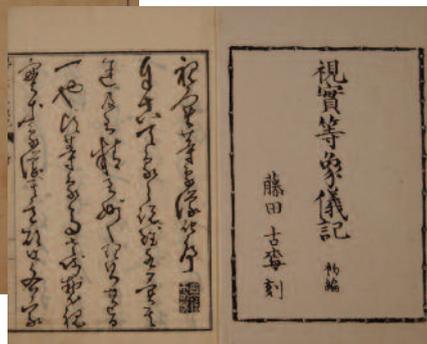


146 清英近世談 前編 5卷 籤 嘉永3年序刊 大5冊 品切れ  
 =武陽/早野惠誌 前編 5卷にて完、以下未刊



147 兵卒教程 卷3 簽 河井源藏編版 有則軒發兌 明 17 中 1册 5,000  
=射之部・散兵之部・前哨勤務之部

148 增訂 士都華氏物理學 上下卷 清野勉增訂補譯 明 19 四六判 2册 10,000

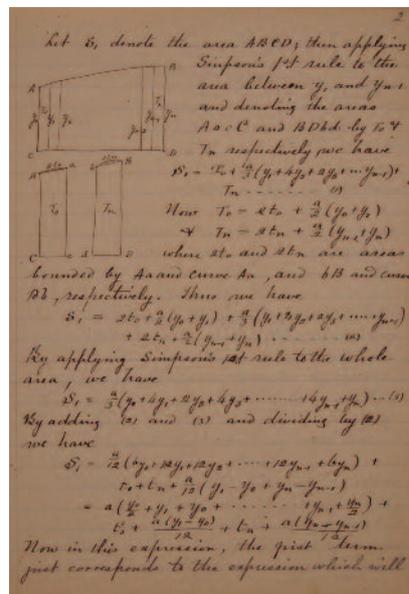
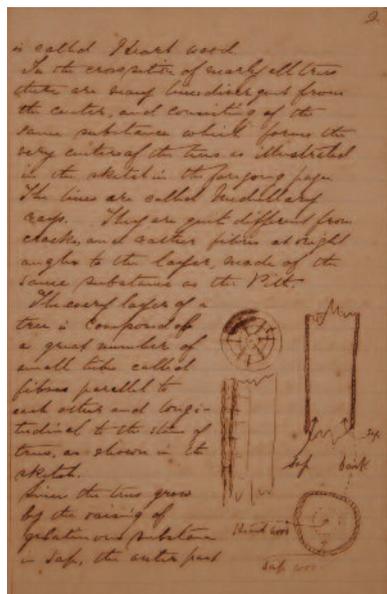
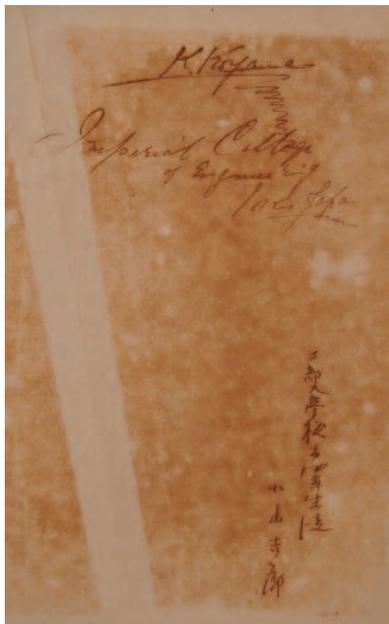


149 美理哥國總記和解 上編 簽 正木篤著 林則徐譯 嘉永 7 半 1册 5,000

150 西洋 各國盛衰強弱一覽表 簽 附圖欠 加藤弘藏 慶應 3 半 1册 15,000

151 視實等象儀記 初編 簽 佐田介石著 藤田古梅版 明 10 半 1册 5,000

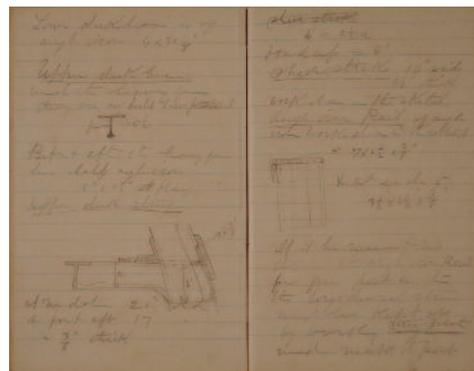
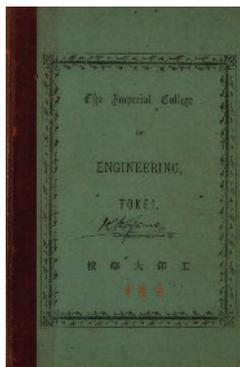
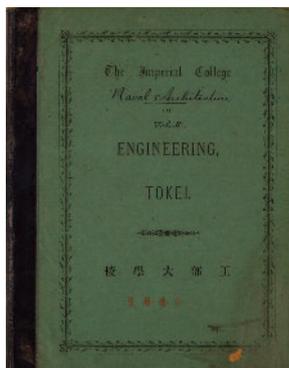
=一天地共和儀記



152 海軍造船少将小山吉郎工部大學校學習ノート及關係資料

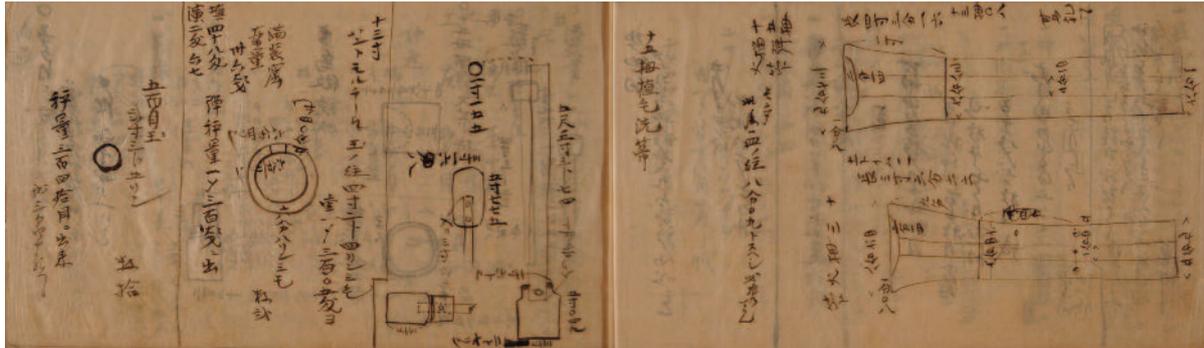
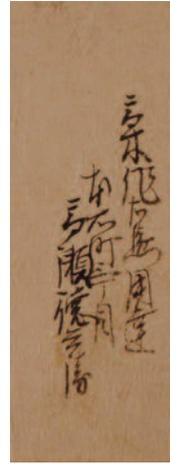
1 括 品切れ

=小山吉郎は明治・大正期を代表する造船技術者。明治21年小野濱造船所製造科主幹となる。明治29年獨逸ニ出張、造船技術を視察。のち横須賀海軍工廠造船部長に就任。海軍造船少将。昭和4年2月26日歿。越後長岡藩出身。本資料は小山吉郎が工部大學校の生徒だったときの學習ノートで、英文を中心とした自筆資料。量からすればほんの一部に過ぎないであろうが、明治初期の工部大學校の學習内容を知り得る資料である。造船に関わる資料も含まれる。現在の東京大學工學部の前身の一つ工部大學校の英名「The Imperial College of Engineering」と印刷されたボール表紙の刊本と見紛いような豪華な背革装釘を施した四六判と菊判のノートに記入されている。但し六冊あるノートの内、三冊はほぼ未使用である。吉郎は明治期の洋画家で教育者として名高い小山正太郎を兄に持ち、陸軍大佐の小山秋作を弟に持つ。兄の正太郎は川上冬崖の「聴香讀画館」に入り塾頭を務めた。







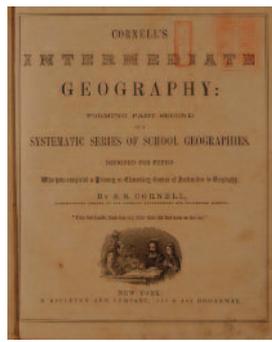
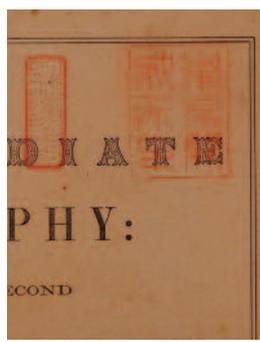
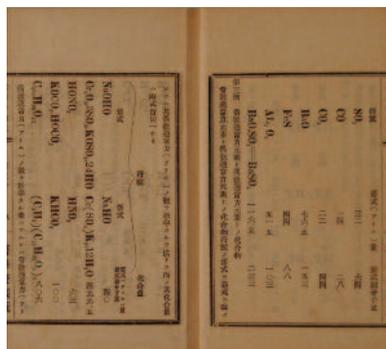


153 和蘭砲術砲藥關係及長崎雜録 雁皮紙 寫本29丁他 嘉永6年の年記有り 大三切1册 品切れ  
 =巻頭に「高木作右衛門用達／本石町三丁目／高瀬徳兵衛」と記された小片が貼附される。寛永より長崎の町年寄を務めた高木作右衛門より代々續いた高木家。これに記される作右衛門は長崎鐵砲方を兼任した13代當主作右衛門忠知であろう。

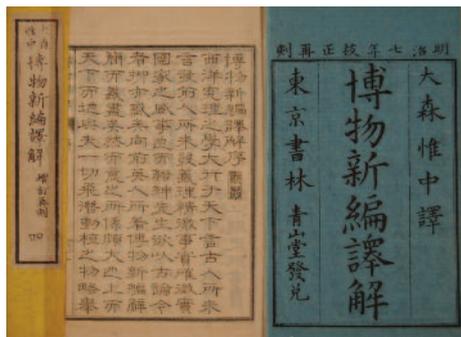
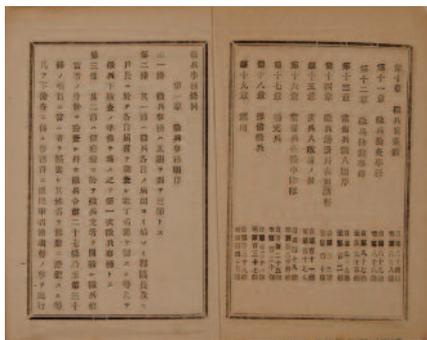








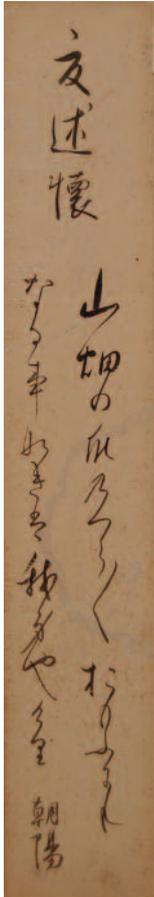
- 154 化学分析法 卷一 籙 前橋相生町小山健三譯纂 明10 半1册 30,000  
 =群馬縣醫學校藏版 和紙金屬活字版 前橋曲輪町/成立舎印刷 全/博文堂支店發兌  
 國會の『明治期刊行図書目録』には本書巻一のみ記録される。以下未刊か。版心には「醫學校藏版」とあり、前橋で少数印刷発行されたであろう傳本は極めて稀。2號と4號大の活字で精巧に印刷され地方版としては優れた印刷技術を誇る。
- 155 CORNELL'S INTERMEDIATE GEOGRAPHY 刊年不明 四六倍判1册 30,000  
 =NEW YORK 「東京開成所印」 開成所舊藏本 ボール表紙 表紙擦れ 大形本



- |     |             |          |               |                   |        |
|-----|-------------|----------|---------------|-------------------|--------|
| 156 | 徴兵事務條例      | 活版90頁他綴込 | 明治10年頃刊       | 四六判1冊             | 10,000 |
| 157 | 大森惟中 博物新編譯解 | 増訂再刻     | 4巻 簽          | 明7 中5冊            | 15,000 |
| 158 | 天變地異        | 簽        | 小幡篤次郎著 慶應義塾藏版 | 明元 中1冊            | 5,000  |
| 159 | 化學論         |          | 磯野徳三郎編        | 文學社 明23 菊判1冊      | 8,000  |
| 160 | 植物通解        |          | 矢田部良吉譯        | 文部省編輯局 明19 四六判1冊  | 10,000 |
| 161 | 博物新編        | 再刻       | 3集 簽          | 欠 帙入 ホブソン著 明5 大3冊 | 10,000 |



- 162 萬國新話 卷四(大尾) 簽 森島中良編 寛政元年刊 半1册 品切れ  
=須原屋壹兵衛 喉の上部に虫
- 163 改正 陽曆講釋 簽 東江先生譯 松壽堂 明5 中1册 15,000  
=内題「西洋 太陽曆講譯」 大黒屋平吉發兌 染み
- 164 西洋算法 卷一 簽 欠見返し傷み 石川長次郎撰 明4 中1册 品切れ
- 165 素本 世界國盡 簽 整版 地方偽版 明治初期刊 中1册 5,000



柳河春三は蕃書調所または開成所きつての天才ではないだろうか。

天保3年に名古屋に生まれ栗木辰助、後に西村良三と改める。

安政3年江戸に赴き柳河春三と改む。一説に名の由来は「柳の河の春の三月」と云う。天保12年伊藤圭介が『萬寶叢書 洋字篇』を著したときに西村良三の名で校者を務め、刊本の版下もその筆蹟から春三の筆によるものに違いない。しかしこの時、漸く10歳であった。圭介は春三のあまりの天才振りに驚き、一時圭介の子になったとする説もある。

江戸では『和蘭字彙』の校訂、『英和對譯袖珍辭書』の編纂に關與し、洋書調所の『バタヒア新聞』の翻譯、このとき使用した木活字の版下も書き、後に自身の『中外新聞』に流用した。吾國初の號外新聞として名高い『別段 中外新聞』は上野戦争の戦況を報じたものだが、なんとその翌日に號外は發行された。これは現代社會では當然だが、當時では画期的なことだった。おそらく板木を彫っていたのでは時間がかかり、この木活字無くしては翌日の發行は不可能ではなかったかと考えます。

よほど筆に自信があった春三は加藤弘藏(弘之)や福地源一郎などの刊本の多くに自筆の序文を寄せ、ときに、いや或いは春三生前は彼らが刊行した板本の版下が春三の筆によるものと考えられます。

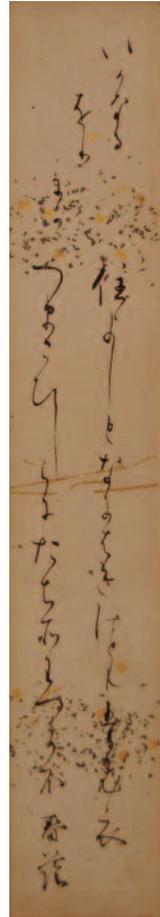
慶應3年『西洋雜誌』を發行しこれが雑誌の始まりと云う。他に世に初とされる刊本が頗る多く、洋算書の始まり『洋算用法』、寫眞書の始まり『寫眞鏡圖說』、チェスの書『西洋將棋指南』、外國料理書『新編異國料理』、西洋時計書『西洋時計便覽』等々。

明治3年2月20日39歳にして死去。あとせめて20年生きていればどれだけの功績を残したか計り知れず、かの福澤諭吉の存在も云々である。しかし世の評価はあまり高いとは云えない。昭和15年に明治文化研究會の尾佐竹猛が小冊子『新聞雑誌の創始者 柳河春三』を上梓して世に知らしめるのみである。筆まめの春三だが直筆物の傳存は極めて稀。更に画も達人だった。雅號は頗る多いことで知られる。名は短冊の「春蔭」で、初めの諱は「朝陽」。

166 柳河春三短冊 (朝陽) 1枚 150,000

167 柳河春三短冊 (春蔭) 1枚 150,000

=開成所きつての能筆家柳河春三であるが直筆ものは極めて稀。





168 世界人物圖卷

1巻 800,000

=繪師不明。江戸後期寫。紙高27糎。總長約1400糎。

江戸時代初期より製作された世界民俗圖譜としての卷子仕立ての傳本。

外題・内題ともないが、九州大學圖書室が所藏する（以下「九大本」）の傳本に倣い『世界人物圖卷』とした。

九大本は巻首に阿蘭陀船二艘と唐船一艘の序圖が描かれその後40ヶ國の人物を現す。しかし本卷では序圖と「莫臥爾人」

「阿蘭陀人」「百几西亞人」の3ヶ國がなく37ヶ國を現すのみ。しかしWEB上に公開されている九大本の画像と比較すると全ての人物画に於いて民俗の表情の特徴や肌の色の正確性に衣服の彩色の細密度など画力が勝っている。

九大本→([http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/hp\\_db\\_f/sekaijinbutsu/index.htm](http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/hp_db_f/sekaijinbutsu/index.htm))

九大本にはないが本卷には國名に振り假名が記され、解説文も本卷の方が行數も多くより詳しい。更に九大本は巻首の序圖と全40ヶ國が記されてあるにもかかわらず總長は876糎とされ本卷よりも500糎も短い。これは國名・人物・解説の順で記されている構成において本卷の方がその間隔が廣くゆったりしていて、更に九大本の男女二人が稀に本卷では三人描かれている。九大本が本卷より省略して模寫されたことは明らかで本卷はより原本に近い傳本であることを裏附けるものである。

琉球人



琉球ハ南海中馬蘭一才ノ鏡宮ト云中百流乳ト云  
本ハ琉球ト云境圖ハ北極地出七事二十五八度  
南海ト云是ナリ

馬加撒商人



馬加撒商人ハ呂宋南ウツク馬蘭ト云大抵國ト云人物  
賤ハ南北極星ヲ見テ南極門答刺國ト云レ

暹羅人



暹羅ハ南大竺摩南地國ト云層二ナ西南南  
熱國ト云海峽同類國ト最ハ佛法ヲ尊敬ス  
東洋最ハ近國ヨリ吾法人物甚賤ト北極地出  
暹羅ハ十四度東洋海峽十五度

英新哥米亞人



英新哥米亞人ハ歐羅巴ノ南地東シタク大島ト云  
主要類ノ數種ナリ水ニテ西火天ハ北國ノ環奈北邊諸  
國地ト北極地ト出七事五十五度或ハ六十度



